

授業概要			
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	4	必要時間数	80
担当教員	金井 優也		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>はきの施術を行う上で、各疾患の現代医学的な成因、病態、症候、診断および治療について理解する。</p> <p>また、本授業の履修により、臨床現場におけるはき施術の適否・各疾患の鑑別の説明、治療の方針の検討を行うことを目的とする。</p>		
教科書	東洋療法学校協会編、臨床医学各論 第2版、医歯薬出版株式会社		

具体的な到達目標	
目標 1	第9章循環器疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 2	第10章血液・造血器疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 3	第11章神経疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 4	第12章膠原病・リウマチ性疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 5	第13章その他の領域に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達	後日伝達	

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション、シラバスについて、心不全について①	
2		心不全について②	
3		心臓弁膜疾患について	
4		不整脈、その他の代表的な先天性疾患について	
5		冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞）について	
6		動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤、大動脈解離など）について	
7		血圧異常（高血圧・低血圧）について	
8		心筋・心膜疾患（特発性心筋症、心筋炎、心膜炎、心タンポナーデ）について	
9		第9章循環器疾患まとめ	
10		赤血球疾患（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、再生不良性貧血）について	
11		白血球疾患（白血病、多発性骨髄腫）について	
12		リンパ網内系疾患（悪性リンパ腫）について	
13		出血性素因（紫斑病・血友病など）について	
14		第10章血液・造血器疾患まとめ	
15		リウマチ性疾患（関節リウマチ）について	
16		膠原病（SLE、全身性硬化症、ベーチェット病など）について	
17		その他の膠原病について	
18		第12章リウマチ性疾患・膠原病まとめ	
19		第9章、第10章、第12章まとめ	
20		脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）について①	
21		脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）について②	
22		感染性疾患（髄膜炎など）、脳・脊髄腫瘍について	
23		基底核変性疾患（パーキンソン病、ハンチントン病など）、その他の変性疾患について	
24		認知症性疾患について	
25		筋疾患（重症筋無力症、筋ジストロフィーなど）、運動ニューロン疾患について	
26		末梢神経性疾患（ギランバレー症候群など）について	
27		神経痛（三叉神経痛など）について	
28		機能性疾患（緊張型頭痛など）について	
29		てんかんについて	
30		第11章神経疾患まとめ	
31		小児科疾患（小児神経症、小児夜尿症など）について	
32		一般外科（損傷概論、ショックなど）について	
33		麻酔科（全身・局所麻酔）について	
34		婦人科疾患（子宮頸癌、更年期障害など）、皮膚科疾患（じんま疹など）について	

35	眼科疾患（結膜炎、角膜炎など）
36	耳鼻科疾患（メニエール病、中耳炎など）について
37	精神科疾患（統合失調症、うつ病など）について
38	心療内科（心身症など）について
39	第 13 章その他の疾患まとめ
40	第 9 章～第 13 章まとめ

その他の事項

担当教員アドレス : y-kanai@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	第2鍼灸科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	黒木 裕士				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	リハビリテーション医学の全体を理解する。具体的には、リハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法等について学習し、各種疾患等の個別リハビリテーション対応を説明できることを授業目的とする。				
教科書	①東洋療法学校協会編、新版リハビリテーション医学、文光堂 ②上田敏著、目でみるリハビリテーション医学、第2版、東京大学出版会				

具体的な到達目標	
目標1	リハビリテーション医学の理念・目的・語源・歴史について説明できる。
目標2	生活機能分類・リハビリテーションの分野について説明できる。
目標3	リハビリテーション医療とチーム、地域リハビリテーションについて説明できる。
目標4	リハビリテーションにおける診断・評価について説明できる。
目標5	リハビリテーション治療学について説明できる。
目標6	整形外科疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標7	神経疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標8	内部障害とがんのリハビリテーションについて説明できる。
目標9	高齢者に多くみられる疾患とそのリハビリテーションについて説明できる。
目標10	小児疾患のリハビリテーションについて説明できる。

評価と試験				
	前 期		後 期	
試験成績	100%		100%	
平常点	0%	算出方法	0%	算出方法
出席点	0%	算出方法	0%	算出方法
その他	0%	算出方法	0%	算出方法
試験日	後日伝達		後日伝達	

*追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	理学療法士としての実務経験
実務経験をいかした教育内容	リハビリテーションにおける臨床経験を有する教員が、その経験を生かしてリハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法等および各種疾患等の個別リハビリテーション対応について講義する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	[動画]4/8	リハビリテーション医学・医療①理念・目的、語源・歴史	教科書①2-7頁、②2頁
2	[動画]4/15	リハビリテーション医学・医療②生活機能分類	教科書①7-12、②3-4
3	[対面]4/23	リハビリテーション医学・医療③リハビリテーションの分野	教科書①12-13、②6
4	[動画]4/29	リハビリテーション医学・医療④リハビリテーション医療	教科書①13-16
5	[動画]5/6	リハビリテーション医学・医療⑤リハビリテーションチーム、地域リハビリテーション	教科書①16-24、②7
6	[動画]5/13	診断・評価学①診断・評価とは、リハビリテーション診療の流れ	教科書①81-92、②9、16
7	[対面]5/21	診断・評価学②検査・測定	教科書①92-139、②16、 42-43、44-45
8	[動画]5/27	治療学①運動療法	教科書①140-149、② 34-35、62-63
9	[動画]6/3	治療学②物理療法	教科書①149-151
10	[動画]6/10	治療学③作業療法、言語聴覚療法	教科書①151-160、② 22-23、50-53、77
11	[対面]6/25	治療学④補装具、自助具・福祉用具	教科書①、②64-67
12	[動画]7/1	脳卒中のリハビリテーション概要	教科書②80-85
13	[動画]7/8	脊髄損傷のリハビリテーション概要	教科書②76-89
14	[対面]7/16	二分脊椎、脳性麻痺、デュシェンヌ筋ジストロフィー、切断者のリハビリテーション概要	教科書②48-49、91-103
15	[対面]7/30	関節リウマチ、疼痛性疾患、呼吸器・循環器疾患、癌のリハビリテーション概要	教科書②104-109
16	[動画]8/26	整形外科疾患①運動器疾患-上肢、下肢	教科書①182-216
17	[動画]9/2	整形外科疾患②運動器疾患-脊椎、脊髄損傷	教科書①216-235
18	[対面]9/10	整形外科疾患③脊髄損傷、切断	教科書①227-241
19	[動画]9/16	整形外科疾患④関節リウマチ・スポーツ傷害	教科書①241-249
20	[動画]9/23	神経疾患①脳血管障害-基礎知識	教科書①250-259
21	[動画]9/30	神経疾患②脳血管障害-リハビリテーション治療の要点	教科書①260-272
22	[対面]10/8	神経疾患③パーキンソン病	教科書①272-278
23	[動画]10/14	神経疾患④脊髄小脳変性症・多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、末梢神経障害、ポリオ	教科書①278-291
24	[動画]10/21	内部障害①虚血性疾患	教科書①292-298
25	[動画]10/28	内部障害②呼吸器疾患	教科書①299-304
26	[対面]11/5	内部障害③糖尿病	教科書①304-317
27	[動画]11/11	がん、高齢者に多くみられる疾患①骨粗鬆症・廃用症候群	教科書①318-347
28	[動画]11/18	高齢者に多くみられる疾患②認知症	教科書①347-352
29	[対面]11/26	小児疾患①脳性麻痺	教科書①353-358
30	[対面]12/17	小児疾患②筋ジストロフィー症・二分脊椎	教科書①358-361

その他の事項

教科書だけでなく、動画等を用いることがあります。対面授業の冒頭では、それまでの授業回での不明点等について質問時間を設けます。

授業概要					
学 科	第2鍼灸科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	高橋佑輔				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	業界にて働いていくうえで、法律に則って活動することは必須である。本講義では、あはき法や医療関係の各種法律について教授し、関係法規への理解を深めることを目的とする。				
教科書	関係法規 第7版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標1	あはき法について理解し、説明することができる。
目標2	医療関係法規について理解し、説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100点		
平常点	0点	算出方法	算出方法
出席点	0点	算出方法	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日	後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、あはき法の歴史、あはき法の目的と必要性、免許制度の意義と資格要件	
2		免許に関する事務、施術者の身分	
3		業務範囲と施術の注意、施術所の規則	
4		施術所の名称制限、広告制限	
5		学校及び養成施設の認定、入学資格等、指定試験機関・指定登録機関の役割	
6		施術者、施術所、指定試験（登録）機関に対する罰則の範囲と量刑	

7	病院、診療所等の医療法に規定される施設の要件、医師及び他の医療職種の免許と業務
8	薬剤師法、医薬医療機器等法の目的・意義
9	健康増進法、地域保健法、精神保健・福祉に関する法律の概要
10	感染症予防及び予防接種に関する法律の概要
11	社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、老人福祉法の概要
12	身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、障害者自立支援法の概要
13	介護保険法、高齢者医療に関する法律の概要
14	個人情報保護に関する法律
15	総復習

その他の事項

適宜、復習してください。

専門分野（臨床経絡経穴学[松浦穰先生担当分]）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2024年度シラバス

授業概要			
学 科	第2鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	2	必要時間数	40
担当教員	松浦 穰士		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	鍼灸治療の臨床の場においてよく遭遇する疾患・症状に対して、正経や奇経を用い治療法を考察する力をつける。また、奇穴や特効穴、奇経治療、頭皮鍼・髪際鍼なども紹介するので、実際に使用する意義や方法などを学習する。		
教科書	教科書は指定しない		

具体的な到達目標	
目標1	経穴の取穴や部位だけでなく臨床にあった取穴術を理解する
目標2	正経だけでなく、奇穴など特効穴を配穴できる。
目標3	頭皮鍼・髪際鍼の方法を理解する。
目標4	奇経治療の応用を理解する。
目標5	鍼灸院で良く見る疾患について、問診や治療法の配穴を自分で決める。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	90%		
平常点	10%	算出方法 小テスト	算出方法
出席点		算出方法	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日	後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	鍼灸師の免許を有する。鍼灸治療院にて23年の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸治療院において、特に遭遇することの多い疾患に対して、診断や配穴方法を紹介する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	[動画]4/8	手の三陰経の主要穴	
2	[動画]4/15	手の三陽経の主要穴	
3	[対面]4/23	手三陰三陽のまとめ	
4	[動画]4/29	足の三陰経の主要穴	
5	[動画]5/6	足の三陽経の主要穴	
6	[動画]5/13	腹部・背部の主要穴	
7	[対面]5/20	足三陰三陽のまとめ	
8	[動画]5/27	消化器疾患（糖尿病）に対する治療法	
9	[動画]6/3	うつ病（心の病）に対する治療法	
10	[動画]6/10	自律神経症状（めまい等）に対する治療法	
11	[対面]6/25	自律神経症状の解説	
12	[動画]7/1	耳鍼療法（瘦身療法）	
13	[動画]7/8	高齢者に対する治療法	
14	[対面]7/16	頭皮鍼・頭髪際鍼の方法	
15	[対面]7/30	試験の解説、良導絡治療の実際	

その他の事項

実際の臨床で特に効果のある経絡・経穴を紹介するのでぜひしっかりと学習してください。経穴の部位がまだしっかりと入っていない人は予習をして受講してください。

専門分野（東洋医学臨床論Ⅰ〔勢志先生担当分〕）シラバス

京都仏眼鍼灸治療専門学校
2024年度シラバス

授業概要			
学 科	第2鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	4	必要時間数	80
担当教員	勢志 有次		
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム
授業目的	平成26年4月開催の第100回社会保障審議会給付費分科会の地域包括ケアシステムの中の資料に“鍼灸師”の名前が明記され、医師・看護師、ケアマネージャーをはじめとする多彩な職種のスタッフと互いの専門性を活かしながら連携する「チーム医療」の一員としての役割が求められています。そのため、本講義では臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対し、チーム医療として必要な共通言語及び東洋医学の専門性、特に鑑別診断と鍼灸治療を学習する。		
教科書	東洋療法学校協会編、新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉、南江堂、2022年		

具体的な到達目標	
目標1	疾患概念と症状を述べることができる〔現代医学分野〕
目標2	類似する疾患群の鑑別診断の要点を述べることができる〔現代医学分野〕
目標3	鍼灸適応の場合の治療穴を述べることができる
目標4	各疾患の分類について説明ができる〔東洋医学分野〕
目標5	各疾患について病因病機を説明することができる
目標6	八綱弁証及び気血津液弁証、臓腑弁証の応用ができる
目標7	東洋医学的配穴の根拠を述べることができる
目標8	代表的な徒手検査法について名称、方法、病巣について述べるができる

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	90%		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	10%	算出方法 欠席1回減点2点、遅刻1回減点1点	算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日	後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	鍼灸師の免許を有する。鍼灸治療院を開院し、15年以上の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床の現場において特に遭遇する頻度の高い疾患、症状に対して基本的な診断ならびに治療方法を学ぶ。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	[動画]4/8	ガイダンス、Ⅱ. 頭痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（1）	
2	[対面]4/18	Ⅱ. 頭痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（2）、Ⅰ. 概説	
3	[動画]4/22	Ⅲ. 顔面痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
4	[動画]4/29	第4節 その他の症候 Ⅰ. 顔面麻痺に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（1）	
5	[動画]5/6	第4節 その他の症候 Ⅰ. 顔面麻痺に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（2）	
6	[対面]5/16	V. 頸肩腕痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（1）	
7	[動画]5/20	V. 頸肩腕痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（2）	
8	[動画]5/27	VI. 上肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
9	[動画]6/3	VII. 肩関節痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
10	[対面]6/13	VIII. 腰下肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
11	[動画]6/17	IX. 腰痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（1）	
12	[動画]6/24	IX. 腰痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（2）	
13	[動画]7/1	X. 下肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
14	[対面]7/11	XI. 膝痛、IV関節痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
15	[動画]7/15	運動器疾患 復習・まとめ①	
16	[動画]7/22	運動器疾患 復習・まとめ②	
17	[対面]8/29	2-3 脾系統 VII. 歯痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
18	[動画]9/2	2-1 肝系統 Ⅰ. 眼精疲労に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
19	[動画]9/9	2-1 肝系統 Ⅲ. めまいに対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
20	[対面]9/19	2-5 腎系統 Ⅱ. 耳鳴り・難聴に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
21	[動画]9/23	2-5 腎系統 Ⅰ. 脱毛症に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
22	[動画]9/30	2-1 肝系統 Ⅱ. 気分障害に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
23	[対面]10/17	総 復 習	
24	[対面]10/31	全 期 ま と め （実 技 等）	

その他の事項

【学習アドバイス】

知識として要求されるのは、『臨床医学総論』、『臨床医学各論』、『経絡経穴概論』、『東洋医学概論』の分野です。この科目は単独で学習する類のものではなく、他の科目の知識がいかに身につけているかが問われるものと言えますので、まずは上記科目をしっかりと確認することが必要です。そのためにも授業前後、または授業中にわからない項目についてその都度、上記4科目の教科書・ノートを確認するようにしてください。

専門分野（東洋医学臨床論Ⅰ[村上先生担当分]）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2024年度シラバス

授業概要			
学 科	第2鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	4	必要時間数	80
担当教員	村上 朱保		
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム
授業目的	はり師きゅう師およびあんま・指圧・マッサージ師は、臨床の現場において治療を安全に実施する必要があり、各症候、疾病の鍼灸などによる治療の適不適を正しく判断し、時に緊急を要する病態、医療機関での受療を必要とする疾患を見極め、適切な処置および治療を行うことが必要とされる。そのため、西洋医学及び東洋医学それぞれの病態把握、治療方針を導き、治療の選択が可能となることを目的とし、各症候をひき起こす病態、疾患の特徴と鑑別、西洋医学的病態生理に基づく治療方針と治療、東洋医学的病態把握、治療方針、治療について学習する。		
教科書	東洋療法学校協会編、新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉、南江堂、2022年		

具体的な到達目標	
目標1	各疾患を引き起こす西洋医学的な病態および疾患を説明することができる。
目標2	各疾患を引き起こす西洋医学的な病態および疾患を鑑別することができる。
目標3	各疾患を引き起こす西洋医学的な病態および疾患を鑑別し、鍼灸治療の適不適を判断することができる。
目標4	各疾患を引き起こす西洋医学的な病態および疾患に基づき治療を選択することができる。
目標5	各症候を引き起こす西洋医学的な病態および疾患に基づき生活指導を行うことができる。
目標6	各症候の鍼灸治療が適応となる病態、疾患について、東洋医学的辨证論治を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法	0%	算出方法
出席点	算出方法	0%	算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日	後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	臨床検査技師、はり師きゅう師の免許を有する。臨床検査技師として病院で10年9か月、鍼灸師として11年間の臨床経験あり。また中国の大学病院において卒業実習1年、中醫師研修として5年間の実務経験あり。教員経験8年。
実務経験をいかした教育内容	臨床の現場で遭遇する可能性のある症候について、その病態や疾患による症状、西洋医学的診察や各種検査による鑑別と治療、東洋医学での辨证論治について説明する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	[動画]9/16	オリエンテーション、第2章 第1節 VII 胸痛	
2	[動画]9/30	第2章 第1節 VII 胸痛 VIII 腹痛	
3	[対面]10/9	第2章 第1節 VII 腹痛	
4	[動画]10/14	第2章 第1節 VIII 腹痛	
5	[動画]10/21	第2章 第2節 2-3 IV 悪心・嘔吐 V 便秘	
6	[対面]10/30	第2章 第2節 第2節 2-3 V 便秘 VI 下痢	
7	[動画]11/11	第2章 第2節 第2節 2-3 VI 下痢 2-4 I 咳嗽と喀痰	
8	[動画]11/18	第2章 第2節 第2節 2-4 I 咳嗽と喀痰 II 呼吸困難	
9	[対面]11/27	第2章 第2節 2-4 II 呼吸困難	
10	[動画]12/2	第2章 第2節 2-4 II 呼吸困難 2-4 III 鼻閉・鼻汁	
11	[動画]12/9	第2章 第2節 2-4 III 鼻閉・鼻汁 第2章 第5節 I 概説 II 月経異常	
12	[対面]12/18	第2章 第5節 I 概説 II 月経異常	
13	[対面]1/15	期末テスト解説	
14	[動画]1/20	第2章 第5節 I 概説 III 性器出血 IV 帯下	
15	[動画]1/27	第2章 第5節 V 不妊症 VI つわり	
16	[対面]2/5	第2章 第5節 VII 骨盤位（逆子） VIII 乳汁分泌不全	

その他の事項

授業進度が多少前後する可能性があります。ご了承願います。

授業概要					
学 科	第2鍼灸科	学 年	3 年	学 期	学期を選択
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	棟居 清峰				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	東洋医学臨床論は、治療各論を重点に展開する。臨床現場で遭遇する症候や疾患に対して、西洋・東洋医学の両面から診断、治療の適否について学習する。				
教科書	新版 東洋医学臨床論くはりきゅう編> 南江堂、新版 東洋医学概論 医道の日本社 臨床医学各論 医歯薬出版社、臨床医学総論 医歯薬出版 等				

具体的な到達目標	
目標1	症候の禁忌、適応の判断ができる。
目標2	疾患、症候を東洋医学的、現代医学的の両面から病態把握ができる。
目標3	疾患、症候に対する鍼灸施術を説明できる。
目標4	疾患、症候固有の症状、反応などを説明できる。
目標5	疾患、症候に対する治療経穴の部位、支配神経、支配筋などが説明できる。
目標6	腹診、脈診、痛みの分類から病態を判断ができる。
目標7	加齢に伴う病態について、説明できる。
目標8	国家試験問題を解き、解答に対する説明ができる。
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達	後日伝達	

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	
教員の実務経験			

実務経験
をいかした
教育内容

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		第2章各論 第2節 2-2心系統 I 動悸・息切れ	シラバス説明含む
2		第2章各論 第2節 2-2心系統 II 血圧異常	
3		第2章各論 第2節 2-2心系統 III 睡眠障害	
4		第2章各論 第2節 2-3脾系統 I 食欲不振	
5		第2章各論 第2節 2-3脾系統 II 肥満	
6		第2章各論 第2節 2-3脾系統 III やせ(るい瘦)	
7		第2章各論 第2節 2-5腎系統 III 排尿障害①	
8		第2章各論 第2節 2-5腎系統 III 排尿障害②	
9		第2章各論 第2節 2-5腎系統 IV ED(勃起障害)	
10		第2章各論 第3節 I 疲労と倦怠	
11		第2章各論 第3節 II 発熱	
12		第2章各論 第3節 III 冷え IV のぼせ	
13		第2章各論 第3節 V 浮腫	
14		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習	
15		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習	
16		第2章各論 第3節 VI 掻痒感・肌荒れ・発疹	
17		第2章各論 第4節 その他の症候 II 歩行異常	
18		第2章各論 第4節 その他の症候 III 口渇	
19		第2章各論 第4節 その他の症候 IV 出血傾向	
20		第2章各論 第6節 小児特有の症候①	
21		第2章各論 第6節 小児特有の症候②	
22		第2章各論 第7節 老年特有の症候①	
23		第2章各論 第7節 老年特有の症候②	
24		(臨各)加齢に伴う病態 a. フレイブル b. サルコペニア、c. ロコモ	
25		(臨各)加齢に伴う病態 d. 治療 まとめ	
26		各種の検査・指標、運動療法の病態と治療など(ストレッチング)	
27		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習	
28		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習	
29		東洋医学臨床総合	
30		東洋医学臨床総合	
その他の事項			

<授業の概要>

教科書および配布資料を用い、授業を行います。

<教員から>

東洋医学臨床論は東西の異なる医学で学んできた内容を総合した科目になります。両方の視点をもって診察から病態把握、施術が出来ることを目標とします。臨床医学各論、臨床医学総論、リハビリテーション概論、経絡経穴概論、東洋医学概論などの教科に関連する科目ですので、都度、復習等を推奨します。

<連絡先>

munesue@butsugen.or.jp

専門分野

(はりきゅう理論II) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2024年度シラバス

授業概要			
学 科	第2鍼灸科	学 年	3 年
単 位 数	2	必要時間数	40
担当教員	金井 優也		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>本授業では人体に鍼灸施術をすると、どのような作用機序で効果を発揮するかを学ぶ。その作用機序を理解するためには生理学の知識が必要になってくる。従って、生理学の知識を再教授し、その知識が鍼灸施術に連結する事を目的とする。また、国家試験に出題される問題に対応できる力を育成する。</p>		
教科書	東洋療法学校協会編、はりきゅう理論第3版 医道の日本社		

具体的な到達目標	
目標1	鍼灸治効に必要な生理学的知識を理解し説明することができる。
目標2	鍼灸の治効機序を理解し説明することができる。
目標3	関連学説について理解し説明することができる。
目標4	
目標5	
目標6	
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	70%		
平常点	30%	算出方法 小テスト	算出方法
出席点		算出方法	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日	後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		運動系の調節（随意運動、反射運動）	
2		運動系の調節（ α — γ 連関と筋緊張）、自律神経による調節	
3		自律神経を介する反射、内分泌系による調節	
4		感覚（痛覚①）	
5		感覚（痛覚②）	
6		感覚（関連痛、痛みと鍼灸、温度覚）	
7		感覚（触覚・圧覚・振動覚・固有感覚①）	
8		感覚（触覚・圧覚・振動覚・固有感覚②）内臓感覚	
9		熱傷（炎症の徴候・出現細胞・制御因子・発痛物質）	
10		熱傷（分類、灸）	小テスト
11		体表の反応、トリガーポイント	
12		鍼鎮痛①下行性痛覚抑制、DNIC	
13		鍼鎮痛②内因性痛覚抑制系	
14		皮膚循環と鍼灸、運動系と鍼	
15		消化器系と鍼、泌尿器系と鍼、リラクセーションと鍼灸、生体防御系と鍼灸	
16		鍼灸治効機序と臨床の接点①	
17		鍼灸治効機序と臨床の接点②	
18		鍼灸治効機序と臨床の接点③	
19		関連学説、まとめ、問題演習	
20		まとめ、問題演習	

その他の事項

状況により、セイリン工場見学・もぐさ工場見学が授業に落とし込まれる可能性があります。予めご了承ください。

専門分野

(鍼灸実技Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2024 年度シラバス

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	90 時間	実施時間数	90 時間
担当教員	樋口 雅一 / 岩本 奈己 / 井口 智弘				
授業形態	実 習	教 室	第1 実技室		
授業目的	運動器疾患を中心に、各部位の症状を鍼灸施術により改善できるようになる。臨床で遭遇しやすい疾患に対し、代表的な治療穴を用いた施術ができるようになる。卒業時に自信をもって鍼灸施術に臨めるように準備をする。 また、各症候の東洋医学的、現代医学的な考え方を理解し、特殊鍼灸術を含めた鍼灸実技が安全に行うことが出来る。病態に合せた鍼灸実技を選択することが出来る。				
教科書					

具体的な到達目標	
目標1	治療経穴を自分で選択できるようになる。
目標2	症状の改善過程を説明できる。
目標3	特定の筋肉を指標に鍼灸施術ができる。
目標4	目的とする場所に鍼尖を誘導できる。
目標5	思い通りの温度で施灸ができる。
目標6	特殊鍼灸術を含めた鍼灸実技が安全に行うことが出来る。
目標7	病態に応じた 鍼灸を選択することが出来る 。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	70%		70%		
平常点	30%	算出方法 課題	30%	算出方法 課題	
出席点		算出方法		算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	(樋口) 鍼灸師免許を有する。鍼灸治療院にて 20 年以上の臨床経験あり。V リーグ (バレーボール) トレーナー。 〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で2年の実務経験あり。本校附属治療所で2年間の実務経験あり。 〔井口〕はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて2年間の実務経験あり。 大学院鍼灸センターにて2年間、往診専門で3年間の実務経験あり。本校附属治療所で1年間の実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	鍼灸を行う事によりどのような症状を改善できるのか、またどのような経過をたどり改善していくのかを伝える。 鍼灸に携わるようになった頃から現在までの感覚の変化も伝えたい。

また、臨床現場で想定しうる疾患に対し、あらゆる観点を踏まえ効果的な治療方法を体現する。具体的な症例、臨床例を列挙しながら授業を展開する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス・穴の概念と捉え方。無痛鍼の打ち方・効かす灸のすえ方	担当 樋口
2		足部の触診	
3		外反母趾・足底筋膜炎の鍼灸治療	
4		足関節捻挫の鍼灸治療	
5		アキレス腱炎の鍼灸治療	
6		シンスプリント・コンパートメント症候群の鍼灸治療	
7		膝関節の触診	
8		オスグッドシュラッター病・膝水腫の鍼灸治療	
9		膝関節症状に対する灸治療	
10		大腿部の筋膜症・肉離れの鍼灸治療	
11		股関節・鼠径部の触診と鍼灸治療	
12		小児鍼	
13		手部の触診・手部の特効穴	
14		手根管症候群・ドゥケルバン症候群の鍼灸治療	
15		肘の触診・内側上顆炎の鍼灸治療	
16		前期試験	
17		外側上顆炎の鍼灸治療	
18		肩関節の触診	
19		肩関節周囲炎（前面）の鍼灸治療	
20		肩関節周囲炎（後面）の鍼灸治療	
21		胸郭出口症候群の鍼灸治療	
22		寝違い・後頸部の鍼灸治療	
23		頭痛に対する鍼灸治療	
24		顔面神経麻痺・三叉神経痛の鍼灸治療	
25		頸肩部の凝りに対する鍼灸治療	
26		頸肩背部の遠隔治療	
27		急性腰痛の鍼灸治療	
28		慢性腰痛の鍼灸治療	
29		風邪・胃腸症状に対する灸治療	
30		後期試験	ここまで、担当樋口

31	灸頭鍼①	岩本
32	灸頭鍼②	岩本
33	奇経治療	岩本
34	棒灸	井口
35	顔面部刺鍼	岩本
36	箱灸	岩本
37	隔物灸	井口
38	鍼通電概要上肢	岩本
39	鍼通電下肢	岩本
40	経筋治療	井口
41	耳鍼	岩本
42	接触鍼	岩本
43	鍼通電神経パルス	井口
44	鍼通電まとめ	井口
45	特殊鍼灸のまとめ	岩本

その他の事項

○授業に関して

ホワイトボードに図等を描くことがあります。必要な方は紙に書いてください。

写真など画像に残す・講義の録音は原則禁止とします。

○平常点について

①紙上の施灸

毎月初めに、10枚ずつ施灸用の紙を配布しますので、月末まで（4月除く）に各担任もしくは井口・岩本へ提出してください。

（4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月 に実施とする）

②レポート提出

専任教員の特殊鍼灸の内容についてレポートを作成し、提出してください。1月末提出〆切。

前期：施灸用紙50枚提出で平常点30点 後期：施灸用紙20枚提出+レポート提出で平常点30点

○実技実習の到達目標

鍼：目標課題に対して誤差なく、決められた刺法で刺入ができること。

【深度】3年生は±2mm以内で刺入できることを最低ラインの目標とする。※但し、目的の深度が1cmの場合は下限を7mmとする。

【角度】（直刺）90°を目標として刺鍼する。3年生は誤差±10°以内で刺入できることを最低ラインの目標とする。

（斜刺）30°から60°であるが、基本45°を目標として刺鍼する。3年生は指定された角度に対し±10°以内

※斜刺は流注に沿っての角度を計測することとする。

灸：目標 人体に対して3分間に12壮、半米粒大の透熱灸（緩和あり）ができること。

【形・大きさ・壮数・方法・時間】3年生は3分間に米粒大10壮、半米粒大12壮

授業概要					
学 科	第2鍼灸科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	135	実施時間数	136
担当教員	臼井/松尾/上田/下宮/棟居/高橋/金井/岩本/井口/佐藤				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	臨床に出て適切に対処できる最低限の知識、技術を身につける。 施術者としての自覚を持ち、安全性を十分に考慮した上で施術ができるようになる。 「東洋医学的」、「現代医学的」両面から収集した情報をもとに適切な対処ができる。 授業で学んだ検査や四診を活用し、患者の病態を把握できるようになる。				
教科書	臨床実習の手引き				

具体的な到達目標	
目標1	施術者としての自覚を持ち、臨床実習に相応しい身だしなみ、態度で積極的に参加することができる。
目標2	患者の「受入れ・医療面接・触診（切診）・検査法・病態把握・施術方針の決定・施術・評価」の流れをスムーズに行うことができる。
目標3	安全かつ適切な対処や施術ができる。
目標4	「東洋医学的」「現代医学的」な病態把握に基づく施術ができる。

評価と試験					
	前 期			後 期	
平常点	算出方法	後期に準ずる	41点	算出方法	その他の事項に記載
出席点	算出方法	後期に準ずる	59点	算出方法	その他の事項に記載
その他	算出方法		0点	算出方法	
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	<p>〔臼井〕あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業4年、他治療院2年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3年の研修経験あり。介護予防運動指導員、福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で4年間の実務経験あり。</p> <p>〔松尾〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて2年間の臨床経験あり。本校附属治療所で11年間の実務経験あり。</p> <p>〔上田〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて2年、鍼灸あま指治療院にて2年間、往診専門で開業7年、本校附属治療所で9年間の実務経験あり。</p> <p>〔下宮〕はり師・きゅう師の免許を有する。整形外科、鍼灸整骨院にて4年間の経験あり。他校附属治療院にて6年間の実務経験あり。本校附属治療所で5年間の実務経験あり。</p> <p>〔棟居〕はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて9年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて2年間、往診専門で2年間、本校附属治療所で14年間の実務経験あり。</p> <p>〔高橋〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。</p>

本校附属治療所で5年間の実務経験あり。

〔金井〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。

鍼灸治療院にて2年間の勤務経験あり。本校附属治療所で5年間の実務経験あり。

〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で2年の実務経験あり。本校附属治療所で2年間の実務経験あり。

〔井口〕はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて2年間の実務経験あり。

大学院鍼灸センターにて2年間、往診専門で3年間の実務経験あり。本校附属治療所で1年間の実務経験あり。

〔佐藤〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。本校附属治療所で13年間の実務経験あり。

実務経験をいかした教育内容

(鍼灸)

鍼灸師にとって必要な東洋医学的理論に基づく治療配穴や刺鍼および施灸方法とその刺激の調整について教育する。また、西洋医学理論に基づく筋肉や神経に対して、適切な鍼の深度と角度で施術ができ、必要に応じて施灸をすることができるように教育する。

授業の内容

回数	内容	備考
1～68	来所患者に対し、教員管理のもと施術を行う。	

その他の事項

<出席点>59点

- ・総授業数の3/4以上の出席をもって59点とする。出席が3/4に満たない場合、加点はしない。

<平常点>41点

【減点方式】下限40点

- ・日々の臨床実習に臨む姿勢（身だしなみ、道具の忘れ、授業態度など）
- ・「欠席届（欠課・遅刻）」の提出（当日欠課の場合、事前の電話連絡の有無など）
- ・令和6年7月～9月の欠課、令和7年1月以降の欠課、前出以外の期末試験前日及び当日の欠課

【加点方式】上限41点

- ・ポートフォリオの提出（4月～12月）
- ・月初めに掲げたパーソナルポートフォリオ、テーマポートフォリオを作成し、その成果を纏めたものを月末に提出する。
- ・評価は、優（5点）、良（3点）、可（1点）の3段階とする。
- ・年間を通じて8回実施する。提出が1度もされなかった場合、臨床実習Ⅱの平常点は0点となり、単位未習得になるため注意
- ・8回すべて提出した場合、ポートフォリオの評価とは別に加点1点とする。

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	前田 朱美				
授業形態	実 習	教 室	第1 実技室		
授業目的	2 年次に学習した経絡治療理論を基に、経絡治療の実際を学ぶ。気血の状態を把握し、鍼灸を用いて補瀉を行い、一連の流れで全身治療を主体的に行う。				
教科書	必要に応じて資料を配布する。				

具体的な到達目標	
目標1	刺鍼に関わる一連の動作で押手と刺手がスムーズに動くことができる。
目標2	気血へアプローチするために丁寧な診察ができる。
目標3	診察から気血の状態を把握することができる。
目標4	ツボを正しく取穴し、丁寧な刺鍼、施灸ができる。
目標5	補瀉を理解し、一連の流れで全身治療ができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	55% (試験の合格を以って 55%を加算する)		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	45%	算出方法 1 回目 : -12 点・2 回目 : -13 点 3 回目 : -15 点・4 回目 : 出席不足	算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	はり師・きゅう師免許を有する。往診にて3年間、教員養成科附属治療所にて2年間、本校付属治療所にて5年間、鍼灸院にて5年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	臨床現場で行っていた経絡治療の経験から、実際の治療内容を理論に基づき解説しながら実践する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		刺鍼基礎 [押手のつくり方と刺手の使い方]	
2		刺鍼基礎 [刺鍼時の姿勢、補瀉法]	
3		刺鍼基礎 [刺鍼に関する一連の流れ]	

4	診察と取穴 [脈診の復習と要穴の取穴、刺鍼と施灸]
5	診察と取穴 [腹診から腹部の取穴、刺鍼と施灸]
6	診察と取穴 [背候診から背部の取穴、刺鍼と施灸]
7	治療基礎 [置鍼術と単刺術を用いた本治法と標治法]
8	治療基礎 [てい鍼など刺さない鍼を用いた施術]
9	治療基礎 [一連の流れで施術]
10	治療基礎 [一連の流れで施術]
11	治療基礎 [一連の流れで施術]
12	治療基礎 [一連の流れで施術]
13	試験
14	試験
15	治療基礎 [一連の流れで施術]

その他の事項

- ・身だしなみについては、実技実習に関する身だしなみルールに準ずる。

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	4 5	実施時間数	4 5
担当教員	樋口 雅一				
授業形態	講義 (動画+対面)	教 室	ホームルーム		
授業目的	スポーツ選手の施術を目標とされている方は勿論、一般の患者さんの施術を目標とされている方も実際現場に出てみると、プレーレベルの差はあるにせよスポーツによる身体の不調を訴える選手や患者さんを診る場面は多くあると思います。適切な施術は勿論の事、時には西洋医学に委ねなければならない場面もあります。 西洋医学に委ねなければならないのか、それとも適切な施術により回復が見込めるのかの判断ができる様、スポーツしよがいの発生機序と施術方法を学習する。				
教科書	教科書は指定しない。授業内でプリントを配布する事があります。				

具体的な到達目標	
目標 1	しよがいの発生機序が説明できる。
目標 2	しよがいに関係する筋肉・神経の走行が説明できる。
目標 3	しよがいに関係する筋肉・骨の触診ができる。
目標 4	西洋医学での診断が必要かの判断ができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	90%		90%		
平常点	10%	算出方法	10%	算出方法	授業態度・参加姿勢
出席点		算出方法		算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	後日伝達		後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	鍼灸師免許を有する。 鍼灸治療院にて20年以上の臨床経験。

バレーボールチームトレーナー

**実務経験を
いかした
教育内容**

鍼灸院および現場でのスポーツ選手のケアの経験より、スポーツしょうがいの発生機序・施術法説明

授業の内容

回数	日程	内容	備考
1	[動画]4/8	ガイダンス、足部の骨	
2	[対面]4/17	足部の機能解剖・しょうがい	
3	[動画]4/22	足部の機能解剖・しょうがい	
4	[動画]4/29	足関節の機能解剖・しょうがい	
5	[動画]5/6	足関節の機能解剖・しょうがい	
6	[対面]5/15	下腿部の機能解剖・しょうがい	
7	[動画]5/20	下腿部の機能解剖・しょうがい	
8	[動画]5/27	膝関節の機能解剖・しょうがい	
9	[動画]6/3	膝関節の機能解剖・しょうがい	
10	[対面]6/12	股関節・殿部の機能解剖・しょうがい	
11	[動画]6/17	股関節・殿部の機能解剖・しょうがい	
12	[動画]6/24	手部の機能解剖	
13	[動画]7/1	前腕・肘部の機能解剖・しょうがい	
14	[対面]7/10	各疾患に対する治療法質疑応答	
15	[動画]7/15	肘部の機能解剖・しょうがい	
16	[動画]7/22	肩関節の機能解剖	
17	[対面]7/31	肩関節の機能解剖・しょうがい	
18	[動画]8/26	肩関節のしょうがい	
19	[対面]9/4	頸部の機能解剖・しょうがい	
20	[動画]9/9	頭痛に対する施術法と対処法	
21	[動画]9/16	背部の痛みに対する施術法	
22	[対面]10/2	腰部の機能解剖・しょうがい	
23	[対面]10/16	腰部の機能解剖・しょうがい	

その他の事項

--